

都市に、心を。

TOSEI'S NOW

スタートした、新中期経営計画！
Advancing Together 2017

FOCUS NOW

トーセイの不動産再生事業

事業ハイライト
連結財務ハイライト
コミュニケーション広場
コーポレートデータ



グループの総合力を活かした高品質経営で 持続的な成長を目指します

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

トーセイグループは、“グローバルな発想を持つ心豊かなプロフェッショナル集団としてあらゆる不動産シーンにおいて新たな価値と感動を創造する”という企業理念のもと、持続可能な社会の発展に向けた不動産の開発・再生を行い、事業を通じた社会貢献による企業価値の向上を目指しています。

当社グループが属する不動産業界におきましては、良好な資金調達環境のもとJ-REITが米国に次ぐ世界2位の市場規模にまで成長し、国内の不動産取引をけん引しているほか、円安を背景に海外企業や海外投資ファンドなどによる不動産取得も拡大しており、不動産投資市場は活況が続いています。

このような事業環境のなか、当社グループは“2020年度に向けた売上高1,000億円規模への成長”を長期ビジョンとして掲げ、**新中期経営計画「Advancing Together 2017」**を推進しています。初年度となる当期は、活況な不動産投資市場を事業成長の好機と捉え、収益不動産の1棟販売や仕入を拡大させるほか、トーセイブランドの魅力を社会に訴求するべく戸建住宅や商業施設の開発を進めてまいります。

今後も当社グループは、皆さまの信頼にお応えすべく企業価値向上を目指し、全社一丸となって事業活動に邁進していく所存です。株主の皆さまにおかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 山口誠一郎

当社グループの中核事業「不動産ファンド・コンサルティング事業」において、グループ最大規模となる大型案件を受託しました

当期よりスタートした新中期経営計画「Advancing Together 2017」では、既存事業の拡大と長期に競争優位性を維持できる組織づくり、高品質かつ磐石な経営体制の構築を通じたさらなる企業価値向上を基本方針としています。なかでも成長ドライバーとして位置づける不動産流動化事業・開発事業の強化に向けて、社員一丸となって取り組んでまいります。

重点戦略

成長ドライバーの強化

- 取引活況な収益不動産の仕入・販売を拡大
- 需要が堅調な戸建等住宅供給の拡大とトーセイブランドの確立

安定3事業の強化

- 経営基盤強化に向けた安定収益の拡大
(賃貸事業収入・ファンド事業収入・管理事業収入)

周辺事業領域への進出・収益化

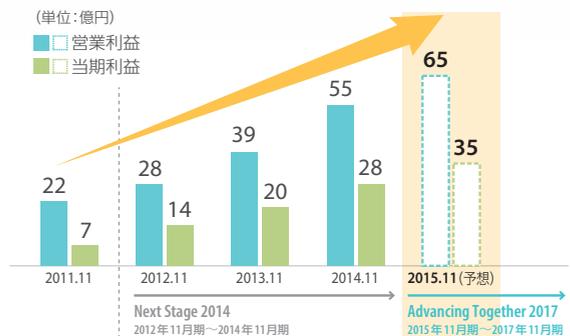
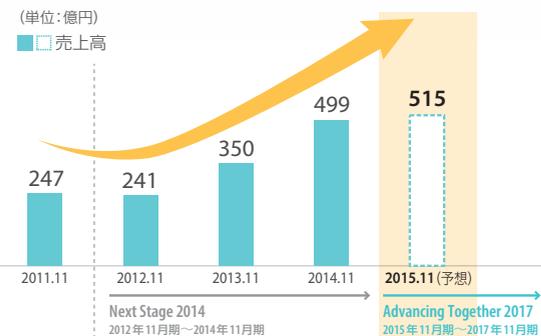
- 海外投資マネーの誘致やASEAN諸国での不動産投資の推進

2015年11月期連結業績予想

2015年11月期は、投資マネー流入により活況となった不動産投資市場向けの収益不動産の1棟売買を拡大させるとともに、需要が堅調な戸建等住宅の開発・販売を積極的に展開してまいります。

1棟販売物件の売却時期見直しなどにより、2015年7月3日に通期業績予想を修正いたしました。

売上高は515億円(前期比3%増)、営業利益65億円(前期比17%増)、当期利益は前回予想比2.9億円増の35億円(前期比24%増)とし、当期も増収増益を目指します。



※ 当社では2013年11月期より国際会計基準(IFRS)を適用しており、本資料は過去数値を含め、すべてIFRSベースで記載しています。

トーセイの不動産ファンド・コンサルティング事業は、トーセイ・リート投資法人の資産運用をはじめ、不動産私募ファンドの組成業務や、組成されたファンドから受託するアセットマネジメント業務などによってフィー収入を得る事業です。

このたび、世界的な資産運用会社であるブラックストーンの関連会社が投資する賃貸住宅用不動産事業について、当社100%子会社であるトーセイ・アセット・アドバイザーズ株式会社が、総額約2,000億円にのぼる収益マンション(計204物件、約10,000戸)のアセットマネジメント業務を受託いたしました。

トーセイグループは、グループの総合力と豊富な経験を活かした高品質なマネジメントを強みに、引き続き受託資産残高の伸長に向けて取り組んでまいります。



受託物件の一例

アセットマネジメント

受託資産残高の推移

(単位: 億円)



注) グラフのピンク部分は、CREの残高を表示しています。当社においてCRE受託は、「企業価値、企業不動産を最適かつ効率的に運用する方針・技術」に関して、不動産のプロフェッショナルの観点で総合的なコンサルティングを行うことと定義しています。

トーセイグループの 不動産流動化事業

トーセイグループの主力事業のひとつである不動産流動化事業は、老朽化などにより資産価値が劣化した不動産を買い取り、市場ニーズに合わせたソリューションを施すことによってその不動産が本来持つ価値を取り戻す、不動産の価値再生事業です。

トーセイのバリューアップ

老朽化した不動産



仕入

売主

- ・個人オーナー
- ・事業法人
- ・不動産ファンド

トーセイのバリューアップ・ステップ「Value Up 32」

老朽化などにより価値が毀損した潜在力の高い物件を**発掘**

環境への配慮及び
物件特性やニーズを見極めたソリューションを施し、
競争力ある物件へと**価値を再生**

リーシングで稼働率を高め、**収益性を早期向上**

販売

再生した不動産



買主

- ・個人オーナー
- ・事業法人
- ・不動産ファンド・リート

老朽化不動産が抱える問題

建物改修にはコストが掛かりノウハウも必要なため、個人オーナーには負担が大きい



1980年代～90年代のバブル期に大量供給された中小規模不動産が、経年により競争力が低下し、市場から取り残されています。これらは収益面だけの問題でなく、耐震性や省エネルギー性能の劣る老朽不動産への対策は、地球にやさしく安全な街づくりの推進において都市が抱える重要な課題となっています。

ポイント

- ◆壊して建て直すのではなく、既存資産を有効活用して再生し、市場に戻す
- ◆バリューアップにより、確実に不動産の収益性や資産価値を向上させることができる

バリューアップは、自然環境にやさしく都市の再生にも繋がります。
社会的意義が高いだけでなく、市況に変動があっても
付加価値を生み出し堅実に利益を獲得できる
ビジネスモデルだと考えています。



アセットソリューション第1事業本部
執行役員兼本部長 中西 秀樹

トーセイグループの 不動産再生ソリューション

— お客さまにとって最適な価値創造のために —

トーセイグループのバリューアップは、そこで住まう人や働く人が安心して快適に過ごせる空間の創出を目指し、物件の立地や個性を活かしつつも、さらに魅力を高める再生メニューを提供しています。このページでは、その再生事例をご紹介します。

バリューアップのフロー

「安心&安全」「洗練&快適」「サステナブル&エコロジー」を提供

独自のバリューアップチェック項目「Value Up 32」を基に現地調査

コストパフォーマンスの検証

バリューアップ項目の抽出・設定

バリューアップの企画・設計・施工管理
(社内一級建築士事務所)

バリューアップ完了・最終点検

安心&安全



Value Up

屋上安全柵の設置



エレベーター内
防災用備蓄BOXの設置

洗練&快適



Value Up



Value Up



コミュニケーションスペースとなるバルコニー・テラス

サステナブル&エコロジー



Value Up



歩行者に安らぎをもたらし、ヒートアイランド対策となる壁面緑化



〈東陽町トーセイビル〉

“環境配慮”と働く人のモチベーションの向上に繋がる“快適性・利便性”を重視したバリューアップを実施

Value Up

働く人がリラックスして笑顔で過ごしていただけるように、バルコニーやテラスなどの屋外スペースに緑溢れるコミュニケーションスペースを設けるなど、憩いのスペース創りを意識して再生プランを設計しました。また、災害などでエレベーターに長時間閉じ込められたときに、安心して救助を待つことができる防災用備蓄BOXを導入するなど、安心・安全にも配慮しました。



アセットソリューション第1事業本部 AS第1事業部
副本部長兼事業部長 舘林 稔弥

✓ 当中間期のポイント

当中間期における売上高は223.4億円(前年同期比9.2%増)、営業利益は45.5億円(前年同期比84.0%増)、当期利益(中間期)は26.5億円(前年同期比106.0%増)となりました。活況不動産市場を背景に収益オフィスビルの販売が好調に進捗し、前年同期比で**大幅な増益**となりました。

不動産流動化事業

売上高構成比 **61.6%**

売上高 **137.5**億円 営業利益 **33.0**億円
 前年同期比 **7.2%増↑** 前年同期比 **160.1%増↑**

- ◆ 投資市場向けを中心とした1棟販売が好調に進捗し、大幅な増益を達成
- ◆ 収益オフィスビル、マンションは18棟を販売し、Restylingは7物件で計34戸を販売

良好な市場環境の中、高利益率で販売が進捗しました。主力の1棟販売では「東陽町トーセイビル」など18棟で126.5億円を販売し、Restylingでは「ヒルトップ横濱根岸」などの再生分譲マンションを34戸で11.0億円を販売しました。また1棟販売向けのオフィスビルや収益マンションを中心に積極的な仕入を進めました。その結果オフィスビル10棟、収益マンション2棟、土地4件、合計16物件を新たに取得しています。



渋谷4丁目ビル



神田小川町東誠ビル

不動産開発事業

売上高構成比 **18.6%**

売上高 **41.6**億円 営業利益 **5.9**億円
 前年同期比 **32.0%増↑** 前年同期比 **105.0%増↑**

- ◆ 需要が堅調な戸建住宅の販売に注力
- ◆ 戸建住宅を11プロジェクトで計57戸販売したほか、新築賃貸マンション1棟を販売

当社主力商品である「THE パームスコートブランド」の戸建住宅販売に注力し、「THE パームスコート三ツ池公園」(神奈川県横浜市)など57戸(11プロジェクト)を販売、宅地4件と合わせて35.7億円を販売しました。そのほかでは、新築賃貸マンション1棟を5.9億円で販売しました。仕入活動では、戸建住宅用地の取得を積極的に進めています。



THE パームスコート三ツ池公園



THE パームスコート文京本駒込

※各事業セグメントの売上高および営業利益には、セグメント間取引が含まれています。

不動産ファンド・コンサルティング事業 売上高構成比 **3.4%**

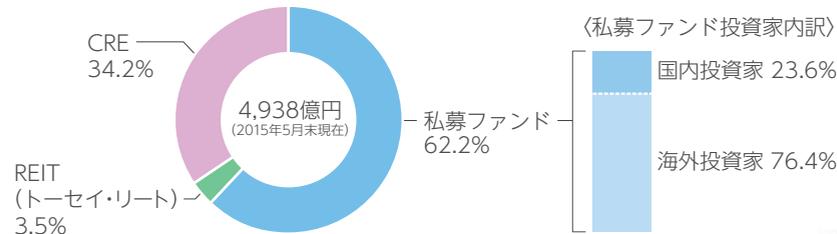
売上高 **7.6億円** 営業利益 **3.2億円**
 前年同期比 **60.2%増↑** 前年同期比 **201.5%増↑**

- ◆ 受託資産残高は、大型案件の新規アセットマネジメント受託およびトーセイ・リート投資法人の上場などにより、CRE受託を含め4,938億円に増加
- ◆ アセットマネジメントフィーが増加し、大幅な増収増益を達成

大型のアセットマネジメント業務を受託したことにより、アセットマネジメントフィーが前年同期比168.6%増の4.1億円となり売上に貢献しました。また、ファンドによる保有物件の売却によるディスポジションフィーが1.7億円となりました。

今後も新規不動産ファンド組成などを通じてアセットマネジメントの受託活動を強化し、受託資産残高の伸長と収益拡大を図ってまいります。

受託資産残高内訳



円安などで日本の不動産の魅力が増し、海外からの投資が増えています。海外投資家に対する積極的な営業活動が実り、2015年5月末時点で、私募ファンドの受託資産残高に占める海外投資家比率は76.4%と、高い割合になっています。



不動産賃貸事業 売上高構成比 **8.2%**

売上高 **18.2億円** 営業利益 **8.0億円**
 前年同期比 **1.8%減↓** 前年同期比 **30.0%減↓**

- ◆ 保有物件の売却に伴い減収減益となったが、新規物件のリーシングを強化し、計画に沿った収益を確保
- ◆ 収益を得られる賃貸物件を48棟保有 (オフィス・商業施設 25、マンション 19、その他 4)

不動産管理事業 売上高構成比 **7.4%**

売上高 **16.6億円** 営業利益 **0.8億円**
 前年同期比 **4.8%減↓** 前年同期比 **39.5%減↓**

- ◆ サービスの拡充と利益率改善・新規業務受託を通じて、安定的な収益の確保に努める
- ◆ ビル354棟、マンション189棟、合計543棟を管理

オルタナティブインベストメント事業 売上高構成比 **1.9%**

売上高 **4.1億円** 営業利益 **0.9億円**
 前年同期比 **36.7%減↓** 前年同期比 **21.1%減↓**

- ◆ スポーツクラブをM&Aしたことに伴う収入と、代物弁済にて取得した不動産の賃貸収入を収益に計上

● 包括利益計算書 (損益計算書)

売上高 **223.4** 億円 営業利益 **45.5** 億円
 前年同期比 **9.2%** 増 ↑ 前年同期比 **84.0%** 増 ↑

税引前利益 (中間期) **41.7** 億円 当期利益 (中間期) **26.5** 億円
 前年同期比 **98.6%** 増 ↑ 前年同期比 **106.0%** 増 ↑

● 経営指標

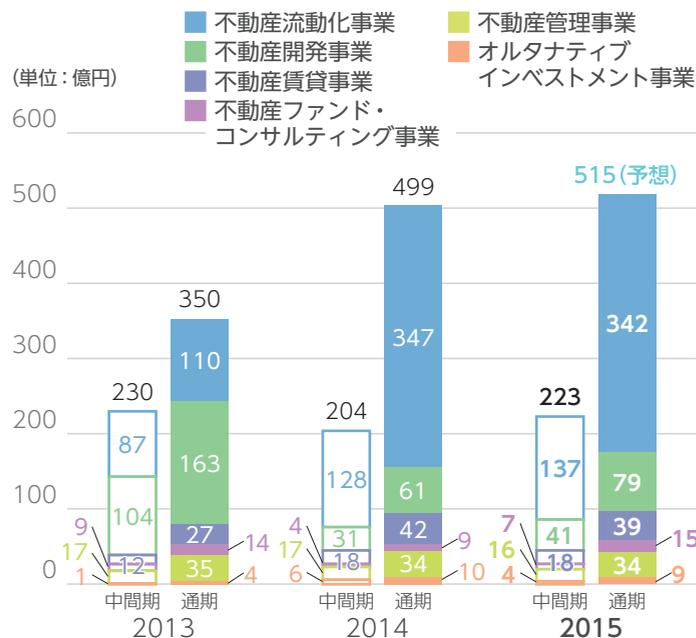
| | 2012.11 | 2013.11 | 2014.11 | 2015.11 (中間期) |
|---|---------|---------|---------|--------------------|
| 親会社所有者帰属持分当期利益率 (ROE) (%) | 5.7 | 7.1 | 9.2 | 15.7 ^{※2} |
| 資産合計税引前利益率 (ROA) (%) | 3.5 | 4.7 | 6.1 | 9.8 ^{※2} |
| 基本的1株当たり当期利益 (EPS) (円) ^{※1} | 3,207 | 43 | 59 | 54 ^{※3} |
| 1株当たり親会社所有者帰属持分 (BPS) (円) ^{※1} | 58,103 | 623 | 677 | 723 |

※1 当社は、2013年7月1日を効力発生日として1株につき100株の割合で株式分割を行っており、2012年11月期のEPSとBPSは、分割前の株数によって計算されています。

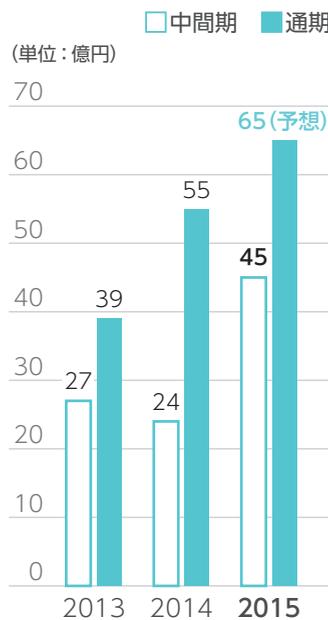
※2 2015年11月期 (中間期) のROEおよびROAは、年換算の利益 (上半期×2) にて算出しています。

※3 2015年11月期 (中間期) の1株当たり当期利益は、半年分の利益にて算出しています。

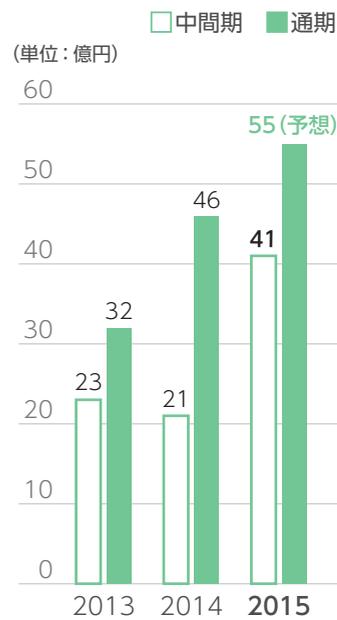
● 売上高の推移



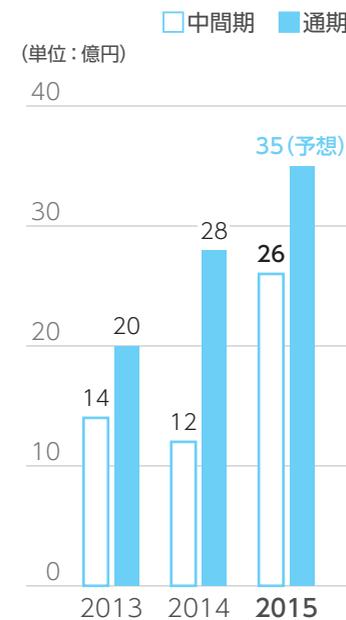
● 営業利益の推移



● 税引前利益の推移



● 当期利益の推移



※各事業セグメントの売上高にはセグメント間取引が含まれており、売上高合計はセグメント間取引消去後の数値を記載しています。
 ※2013年11月期より国際会計基準 (IFRS) を適用し、本資料は過去数値を含め、すべてIFRSベースで記載しています。

● 財政状態計算書 (貸借対照表)

(単位：億円)

現金及び現金同等物

168

現金及び現金同等物は前期末比7億円増加の168億円となりました。

棚卸資産 (不動産)

496

物件売却を上回る好調な仕入の結果、棚卸資産は前期末比80億円の増加となりました。

投資不動産・有形固定資産

177

(有形固定資産)

32

(投資不動産)

144

投資不動産 (144億円) の時価評価額は209億円 (当社試算) となります。

その他資産

60

資産の部 負債・資本の部

借入金 **478**

(短期) **90**

(長期) **387**

物件の仕入による新規借入が売却による借入返済を上回ったため、借入金は前期末比74億円の増加となりました。新規仕入17物件* (簿価：約197億円) に対する新規借入として約173億円 (LTVは約88%) を調達しました。
*固定資産1物件 (簿価：約6億円) を含みます。

その他負債

74

資本

349

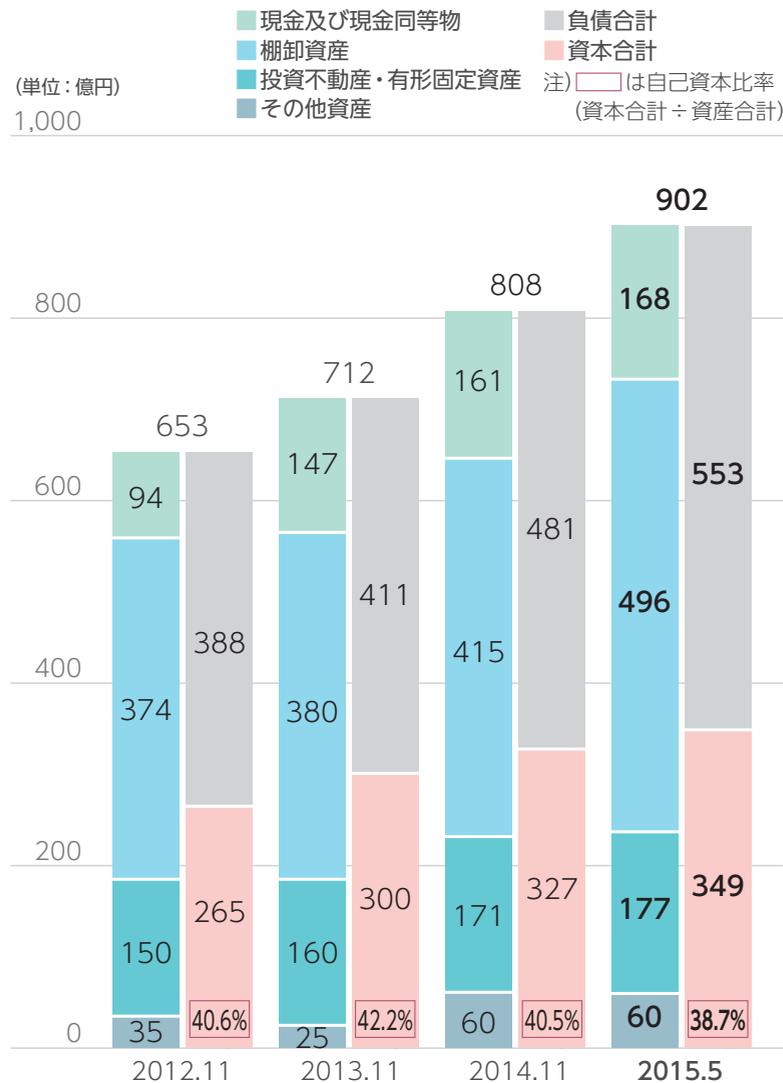
利益剰余金の積み上げによる増加、配当金の支払による減少などの結果、資本は前期末比22億円の増加となりました。

総資産 902億円

● 財政状態計算書の推移

(単位：億円)

1,000



コミュニケーション広場



株主さまのご質問にお答えします

当社では、2014年11月期「TOSEI REPORT (株主の皆さまへ)」にてアンケートを実施し、495名の株主さまよりご回答いただきました。この場を借りて、皆さまのご協力に深く御礼申し上げます。アンケートにお寄せいただいたご意見・ご要望は真摯に受け止め、今後の経営やIR活動の改善に取り組んでまいります。こちらでは、皆さまからの声の一部をご紹介します、それについてお答えいたします。

アンケートにお寄せいただいた皆さまの声

Q1. 安定配当をお願いします。(60代女性)

Q2. 株主優待を始めて欲しい。(30代男性)

当社の利益還元方針は、安定的な分配や、内部留保などに鑑み、総合的に判断することが経営上の重要課題であると認識しております。なお、株主優待については、不動産会社であることからお送りできる自社製品がないこと、商品券などは事業との関係性が乏しいことから実施を見送っております。着実な利益成長に伴い、増配を実現することが株主さまに対する最大の還元につながるかと考え、事業に邁進してまいります。

Q3. 会社説明会をお願いしたい。(70代男性)

当社では、定期的に個人投資家の皆さまに向けた会社説明の場を設けております。毎年、株主総会後に事業戦略説明会を開催するほか、2014年は全国の方にご参加いただけるよう、インターネットを使った会社説明会を実施いたしました。

Q4. 知名度向上に努めてほしい。(70代男性)

多くの皆さまに広くトーセイを知っていただくため、PR活動に力を入れております。当期は、日本経済新聞・毎日新聞などへの広告掲載に加え、東京メトロの車内広告や屋外看板の広告掲出を行っております。



IR情報をメールで配信しています

株主さまや投資家の皆さまへ、適時開示や決算情報などのIR情報を配信しております。是非、ご登録ください！

検索

<http://www.toseicorp.co.jp/ir/>



ご登録はこちらをクリック!

IR情報メール
IR情報メールにご登録いただいた皆さまに、当社のIR情報をメールにて配信しております。ぜひ、ご登録ください！
※決済情報送信代行サービス(ディマネット)を通じて配信しています。
ご登録はこちら

プロの声

証券アナリストやファンドマネージャーなどの株式市場のプロの方々から受けた代表的な質問と当社の回答をご紹介します。



Q1. 再度金融危機が起きた場合の想定はしているのか？

過去の金融危機では、6事業によるポートフォリオ経営でリスク分散を行っていたことなどにより、黒字経営を維持しました。さらに、現在はより強固な経営基盤の実現に向け、安定的に収益を得られる事業(賃貸事業収入、ファンド事業収入、管理事業収入)の拡大を図っています。また、主力の不動産流動化事業においては、独自のチェック項目「Value Up 32」をフル活用したバリューアップで物件の価値を高め、環境が悪化した際にも競争力のある魅力的な不動産を創出しています。

Q2. 不動産市況の回復は持続すると考えてよいのか？

不動産価格は金融危機前のピークに近づいていますが、当社は3つの理由から今の市況が暫く継続すると予想しています。まず、アベノミクスを背景とした賃金上昇により景況感がさらに改善し、不動産投資の底上げに繋がると期待されること。次に、日本国債の利回りが0.4%(2015年7月現在)と世界的に見ても低水準であり、投資利回りと長期金利との差が金融危機前に比べて大きいこと。最後に、円安により日本不動産の魅力が増しており、海外投資家の投資意欲が極めて旺盛であることが挙げられます。トーセイグループでは今後も市況を見極め、適切な投資を行ってまいります。

コーポレートデータ

●会社概要 (2015年5月31日現在)

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| 商号 | トーセイ株式会社 | | |
| 代表者 | 山口 誠一郎 | | |
| 設立 | 1950年2月2日 | | |
| 所在地 | 東京都港区虎ノ門四丁目2番3号 | | |
| 資本金 | 6,421,392千円 | | |
| 上場金融商品取引所 | 東京証券取引所市場第一部(証券コード:8923) シンガポール証券取引所メインボード(証券コード:S2D) | | |
| 従業員 | 135名(連結269名) | | |
| 事業内容 | 不動産流動化事業、不動産開発事業、不動産賃貸事業、 不動産ファンド・コンサルティング事業 | | |
| 許認可等 | 宅地建物取引業、特定建設業、一級建築士事務所、 第二種金融商品取引業、投資助言・代理業、 一般不動産投資顧問業、不動産特定共同事業 | | |
| 関連会社 | トーセイ・コミュニティ株式会社 トーセイ・リバイバル・インベストメント株式会社 トーセイ・アセット・アドバイザーズ株式会社 Tosei Singapore Pte. Ltd. NAI・トーセイ・JAPAN株式会社 株式会社クリスタルスポーツクラブ | | |

●役員 (2015年6月1日現在)

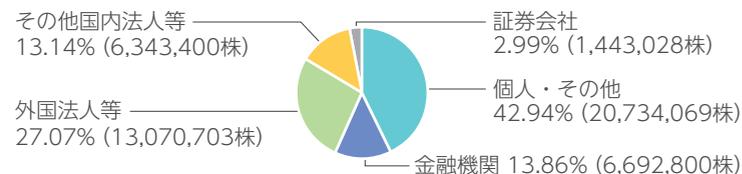
| | | | |
|----------------|--------|--------|-------|
| 代表取締役社長 執行役員社長 | 山口 誠一郎 | 常務執行役員 | 渡辺 政明 |
| 取締役専務執行役員 | 小菅 勝仁 | 執行役員 | 藤原 宣人 |
| 取締役専務執行役員 | 平野 昇 | 執行役員 | 山口 俊介 |
| 社外取締役 | 神野 吾郎 | 執行役員 | 川端 一郎 |
| 社外取締役 | 少徳 健一 | 執行役員 | 中西 秀樹 |
| 監査役(常勤) | 本田 安弘 | 執行役員 | 倉本 幸二 |
| 監査役(常勤) | 北村 豊 | 執行役員 | 伊藤 天心 |
| 監査役(常勤) | 西中間 裕 | | |
| 監査役(非常勤) | 永野 竜樹 | | |
| 監査役(非常勤) | 土井 修 | | |

●株式の状況 (2015年5月31日現在)

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 150,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 48,284,000株 |
| 株主数 | 6,685名 |

●所有者別株式分布状況

(2015年5月31日現在)



●大株主の状況 (2015年5月31日現在)

| 株主名 | 持株数 (株) | 持株比率 (%) |
|--|------------|-------------|
| 山口 誠一郎 | 12,885,500 | 26.68 |
| 有限会社ゼウスキャピタル | 6,000,000 | 12.42 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 2,552,000 | 5.28 |
| CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY | 1,830,000 | 3.79 |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 | 1,708,100 | 3.53 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,210,000 | 2.50 |
| KBL EPB ORDINARY ACCOUNT 107501 | 845,900 | 1.75 |
| HSBC - FUND SERVICES, SPARX ASSET MANAGEMENT CO LTD | 645,100 | 1.33 |
| BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS | 630,000 | 1.30 |
| BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) | 585,550 | 1.21 |



取締役専務執行役員 小菅 勝仁 代表取締役社長 山口 誠一郎 取締役専務執行役員 平野 昇

T O S E I

- ∞ は無限大(∞)の成長性と可能性を表現
- ∞ は不動産と金融の融合とグローバルなビジネスフィールドを表現
- ∞ はフレキシビリティ(柔軟性)を表現

都市に、心を。

トーセイは、あらゆる不動産シーンにおいて
新たな価値と感動を創造する「都市創造企業」として、
都市の魅力を高めることを目指しています。

魅力的な都市・建物をつくるためには、すべてを壊して建て替えるのではなく、
それぞれの土地が持つ個性にあわせた柔軟な取り組みが必要であると考えています。
新たな価値と感動を創造するために、心を込めて、都市をつくりあげていく——
「都市に、心を。」は、こうした思いを表しています。

株主メモ

| | |
|-------------------|--|
| 事業年度 | 12月1日から11月30日まで |
| 定時株主総会 | 毎年2月下旬 |
| 基準日 | 11月30日 |
| 剰余金の配当の 基準日 | 5月31日、11月30日 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話0120-232-711 (フリーダイヤル) |
| 公告方法 | 電子公告 (http://www.toseicorp.co.jp/ir/publicly/index.html) ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない 事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 |

| | 証券会社に口座を お持ちの場合 | 特別口座の場合 |
|---------------|--|--|
| 郵便物送付先 | | 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 電話 お問い合わせ先 | お取引の証券会社になります。 | 0120-288-324 (フリーダイヤル) |
| お取扱店 | | みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店 |
| ご注意 | 未受領の配当金につきましては、 三菱UFJ信託銀行本支店でお支 払いいたします。 | 株式売買はできません。 |

T O S E I トーセイ株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目2番3号 虎ノ門トーセイビル
TEL. 03-3435-2864

Q トーセイ 不動産 検索

<http://www.toseicorp.co.jp/>



東京証券取引所市場第一部
(証券コード: 8923)



シンガポール証券取引所メインボード
(証券コード: S2D)



トーセイ・リート投資法人
(証券コード: 3451) ※
※トーセイ・アセット・アドバイザーズが
資産運用を受託する投資法人



本冊子は、植物油インキを使用し、環境にやさしい「水なし印刷」で
印刷しています。